

平成 29 年度 第 1 回 幸田町総合戦略推進委員会 議事録

○日 時：平成 29 年 7 月 28 日（金）午後 2 時～4 時

○場 所：幸田町役場 4 階 第 3 第 4 委員会室

○出席者：委員及びオブザーバーの計 16 人、町事務局等 7 人

○協議内容と主な意見等

「幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における数値目標及び交付金事業に対する現時点での評価、並びに各種施策の取り組みについて、委員から以下のようなご意見をいただきました。

●総合戦略の取り組み

- ・幸田町は人口も増加し、活気のある住みよいまちだが、人口増加により人と人とのつながりが希薄になることも懸念されるので、幸田町の良さでもある地域コミュニティの形成にも留意して欲しい。
- ・引続きスピード感を持って取り組んで欲しい。

●数値目標（K P I：重要業績評価指標）に対する現時点での評価について

- ・法人数が減少しているとのことだが、跡継ぎ不在により廃業した個人事業主も含んでいることから、これらを除いての評価が妥当と思う。
- ・保育園の待機児童数はゼロだが、児童クラブの待機児童数が増えているため、これらの対策が急務である。
- ・人口減少地区において、空き家の活用による定住人口や交流人口の確保等により、地域の活力向上を図って欲しい。

●交付金事業について

- ・抗酸化イチゴについては情報発信による町民の理解と、農家の収益確保に向けた取り組みを進めて欲しい。
- ・低温プラズマによるイチゴ、トマトなどのブランド化に期待している。
- ・自動走行については、公共交通や 3 D マップの活用も含め、実用化に向けた取り組みを進めて欲しい。

●企業立地・雇用について

- ・地域未来投資促進法の活用、跡継ぎ問題に対する対応、女性の起業支援など、国の各種制度を活用いただき、産業振興を行って欲しい。
- ・新たに整備する工業地区について、法令順守はもちろんのこと、山なみや稜線の景観など、幸田町の豊かな自然環境との調和に留意して欲しい。また遊休農地の活用の際は、補償費の問題も含め、十分に調整して欲しい。

●子育てについて

- ・小中学校の教員の多忙化問題の解消により、子どもたちが家庭や地域に戻る時間が多くなるため、その受け皿をきちんと確保することが必要である。

これらの意見を踏まえ、引き続き各種事業・施策を推進していきます。

以上